

日本キリスト教団

京都教区ニュース

〒602-0917
 京都市上京区一条通
 室町西入ル
 TEL (075) 451-3556
 FAX (075) 451-0630
 E-mail
 info@uccj-kyoto.com
 発行代表者 望月 修治
 編集責任者 韓 守信

【巻頭シリーズ】

教区にとって私とは(6)

隠退教師 阪田 吾郎

表題の意図するところはつかみかねますが、元議長として所感を述べよということなので、在任時のことを思い返すままに、感じたことを記させていただきます。

教区総会が靖国神社国家護持反対の決議を巡って紛糾し、「教会と社会」特設委員会を設置することで再開された一九七三年から、教区役員(書記、副議長、議長)としての務めを担いました。「教団は教区に任せ、教区は教会に仕える」という主張は、自明のこととして継承しました。地域的に寄り合った教会が人と知恵と財を出し合って支え補いつつ、各教会の宣教の進展につくすことが教区の役割であるとして理解し、そのためには近隣の教会がまず手を携えて行こうと、「伝道協議会(後に地区となり)が生まれました。しかし、紛糾のために一時頓挫しました。教区内の教

会相互の信頼と交わりの回復は、地区活動の活性化と信徒間の交わりにあると思います、地区持ち回りの教区大会の開催と地区活動を積極的に支援するため、伝道費からの地区交付金を増やすように努めました。これは、教会数と経済力の多い市内地区(現、京都南部地区)の教会が、滋賀地区、府下地区(現、両丹地区)への連帯を分かち合うことと考えてのことでした。後に交付金の外に地区費を集めるところが出てきたので話し合うと、「身銭をきることで活動が活きる」とのことでした。結局、各地区ともに地区費を集めるようになりました。

「教会と社会」特設委員会、部落差別問題特設委員会をはじめ、各委員会が活動を積極的に進めてくださいました。これらは、最初の「京都教区宣教基本方策」として集約されました。日本語学校の賃貸料を主たる原資として、教職謝儀補助制度の検討を始め、先行する他の教区の実情を調べました。これを実施するには相当の基金(その基金の果実で運営できるのが理想です)を積む必要があります。始めた限り途中で止めることはできないので、

安易に実施には踏み込まず、基金の整備に努めることに止まりました。
 教区大会への協力の要請、地区費、教職謝儀補助制度のことなどについて意見を伺うため、役員が手分けして各教会を問安したとき、「召命を信じて献身を決意したのだから、霞を食べてでも伝道に励むのが牧師だ。教職謝儀補助制度には絶対反対だ」と厳しく叱られたことは忘れられません。

教団については、小野副議長、後宮議長、原議長と、教区関係者が次々と重責を担われたので、教区を挙げてその支援に努めました。十年余りの教区との強い関わりから離れ、教会の牧師に専念できるようになった時、何かホッとした気分になり、これで税金は払い終わったと思いました。国民が納税の義務を負うように、教区と繋がりのある教会の教師として、担い合わねばならないと務めだと考えていたからです。できるだけ多くの人々が替わりあって任に当たり、委員会のメンバーとしても、代議員のみではなく、教会からの推薦を受けて会員にまで広げて行けば、教区の抱える諸問題が教会によく理解されるのではないかと思います。

教会員の高齢化、会員の減少、経済力の低下、教師の不足など、教区内の諸問題が指摘されています。パウロは、信仰者の在り方として忍耐を教えています。頭を垂れて苦難の通り過ぎるのを待つのではなく、力を合わせて立ち向かい、苦難に抗して克復する忍耐が求められているのではないのでしょうか。

【報告】

不登校・ひきこもりの
青少年やその家族と共に歩む
特設委員会からの報告

委員長 倉橋剛

二〇〇九年度教区総会において承認され、以降「不登校・ひきこもりの青少年やその家族と共に歩む特設委員会」として回を重ねてきた。

現代の社会にあつて多くの困難を抱えつつ身近なところで生きておられる当事者やその家族。誰でも「ひきこもり」という状態になつても不思議でない今の社会。その中で偏見や差別の目で見たり、「甘え」、「さぼり」と非難したりする人々も多い。本当に彼ら、彼女らの実態や心の声を聴かず、あるいは無視し簡単に切り捨ててしまつている我々も含めた大人達がいる。本当に心痛む話だが一つの表現を取るなら、彼ら、彼女らはある意味、常に「生きるか」、「生きないか」という選択をし続けて、ようやく意識的に「生きる」ことを選択している。

この苦しさ・辛さをどう感じるのか。これは、当事者から実際に聴いた話である。そこまでに彼ら、彼女らは自分の存在を意識し、「生きるのならどう生きていくのか」と真剣に問うている。世の流れに流されながら「生きる」

ことを、さも当然のように意識もしない大人達も多いのではなかるうか。多くの悩みを抱えながら真剣に生きている彼ら、彼女らを、決して私たちは「怠け者」だとは呼ばせたくない。そして、神が与えておられる大切な「生命」を彼ら、彼女ら自身が「自分は自分らしく生きていいんだ」と自己肯定出来ることを願いつつ、彼ら、彼女らと、また家族と共に歩むということを、この委員会の基本的な立ち位置としたい。

委員会の中間報告と今後の課題として、すでに第一に始めていることは、やはり学びである。まず委員が学び、そして今後の課題として教区の諸教会やまた地域に向けてもその学びの場を広げていきたい。学習会や講演会なども検討を始めている。

第二に、当事者や家族への具体的な関わりを持つる場を考える。可能な形で「居場所」や、家族を中心とした「親の会（試みとして、まだ一教会内ではあるが「臨床心理カウンセラーを囲んだの保護者懇談会」を行った）の実施。

第三として、社会資源として既に活動している公的相談窓口やフリースペース等との連携や活用。これらのほか、委員会として取り組みたい課題は多い。

当委員会は、その課題からしても短時間で何かすぐ結果が出るようなものではない。しかし、社会の中で今弱い立場におかれている

彼ら、彼女らと間違いなく共に歩むという方向性だけははっきり確認しつつ、焦らずコツコツとした積み重ねの中で活動を続けている。一匹の羊を大切にされたイエスの後に従いつつ歩み続けたいと願っている。

教区改革検討特設委員会からの報告

委員長 井上勇一

二年目を迎えた教区改革検討特設委員会は、現在、十四名の委員で構成しています。地区、宣教部、財務部、常置委員会、三役という教区の主だった部門から委員を推薦し委嘱しています。一年目は、話し合いを通して各委員からの意見を集約し、改革のポイントを探ってきました。各委員はそれぞれの教会観、宣教論を持っていますし、自らが置かれた立場から意見を述べてきました。ですから、改革の方向性を探ることに困難さがありません。

その中で見えてきた改革の方向性は、教会・教区の財務でした。現任陪餐会員一人当たり、平均一二六、一六七円を教会に献げ、一教会あたり平均四四六、一一五円（経常収入中七・二％）を教区に献げ、教区は教区予算から三・二％を教団に納付しています。

京都教区は、昨年の統計で三、八三七人の現任陪餐会員を数えます。その平均年齢を六十五歳と仮定しますと、六十五歳の方が年間

一二六、一六七円を献げているということになります。六十五歳という年齢は年金生活者であり、教会は彼らを中心にして支えられているということになります。しかも、会員の半分以上は女性であることを考えますと、負担は家族全体に及んでいるということになります。

また、京都教区には七十八教会・伝道所があります。経常収入の平均は六一三万円です。その内五二%が教職謝儀に支出され、伝道費は四・五%です。教職謝儀の比率は、ここ十年間は微増し、ここ二年は微減しています。それに比べ、伝道費は激減してきました。経常収入そのものも減少してきています。以前、教区改革検討準備委員会が出した統計では、京都教区内の教会・伝道所の教勢・財務状況は、一九七九年を「一〇〇」としたとき、二〇〇九年は「七五」という指数になっています。

このような教区の実勢において、どのような点を改革の視点におくべきでしょうか。

一、教会員の顔と顔とが見える教会関係づくり

二、人との交流が教会互助を作り出し、教会間の連帯を作り出す。

三、対等な関係に基づいた教会互助システムづくり

これら三点の改革の視点があげられています。残りの半年余りの間に、具体的な案を提案し

ていきたいと願っています。

「合同」問題特設委員会からの報告

委員長 竹ヶ原 政輝

当委員会は、以前、常置委員会のもとに置かれていた合同問題小委員会の活動と宣教部が担っていた働きの一部を引き継ぎつつ、「合同のとらえなおしと実質化」に関する取り組みを更に深めていくべく、二〇〇五年に設置されました。

活動の大きな柱の一つは、ほぼ隔年で実施されている「沖縄現地研修」です。今年の二月に第十二回が行われ、委員を含め十四名（うち、九名が学生）の参加がありました。このところは戦跡・基地めぐりの体験学習と共に講師をお迎えし、沖縄を知り、「合同のとらえなおしと実質化」問題について考えるための講演をお願いしています。今回は、村椿嘉信教師（石川教会・当時）にお願いました。現在、村椿教師の講演録も含めた報告書作成の最終段階に入っています。今しばらくお待ちいただき、お手元に届いた際には、是非、ご一読ください。

もう一つ、委員会が取り組んでいるのは、「合同」問題関連資料のデータベース作成です。『教団新報』、『福音と世界』、『時の徴』などに掲載された関連記事を収集し、データベース化

するという作業を進めてきました。具体的には、記事をパソコンに取り込んで電子化する（誌面をPDF化する）と同時に目録を付けるというのですが、電子化によってキーワード検索といったことも容易になりますし、「合同のとらえなおしと実質化」問題に関する一次資料をまとめたものとして、今後、この課題に関する学習、研究に用いられることを願っています。現在、『教団新報』がほぼ出来上がっており、ROM版と縮小印刷した紙版のものを用意し、教区の各教会に配布することになっています。

基地問題をはじめとする沖縄に関する様々な活動への連帯の窓口となったり、教区での受け皿になったりということにも、「教会と社会」特設委員会などと協力しながら携わっています。

今年度で現在の委員は今期二年の任期を終えますが、委員の一人で、先日隠退された府上征三教師がこれまで担ってくださった貴重な働きをどのように引き継いでいくかといったことも、来期に向けての課題の一つと考えています。「合同教会」としての「日本基督教団」のあり方が問われている中で、京都教区における「合同」問題に関する取り組みをつなげ、深め、拡げていくことの大切さを思います。

性差別問題特設委員会からの報告

委員長 堀江有里

偶数月の第一火曜日に定例で実施している「聖書を読み直す会」は、八月で第一一八回を数えました。二〇〇八年度より「いま、聖餐をめぐる」をテーマに継続しています。これまでおもに教区内の方々に各教会の現場での状況や教団や世界の教会の聖餐をめぐる議論についてなど多岐にわたる発題をしていただきました。毎回、さまざまな意見を交換しつつ、活発な話し合いの場をもってきました。

この連続講座を開始したきっかけは、受洗していない人々を含む聖餐式執行が「教憲教規違反」として一教師が教団で「退任勧告」を受けるに至った（事件）です。そもそも教団執行部が各個教会の決断に介入すること自体が（暴力）的なことです。しかし、その暴力性は教団執行部（またそれを支える人々）だけではなく、まさにわたしたちの教会の（日常）と結びついているのではないか——その教会の日常のなかで大切にされてきた「聖餐」とはいったいどのような意味をもつものなのかを根源的に問いたいとの思いから始まった連続講座です。これまでの連続講座と同様、教会／キリスト教の性差別構造を問う切り口として「聖餐」を考える——（日常）のなかにじつは根幹で繋がっている事柄をみていく

ことが目的です。三年間にわたる連続講座の記録は『聖書はおもしろい』第六巻として来春に発行するべく準備を進めています。

今年度の「性差別問題セミナー」は、日本軍「慰安婦」問題をテーマに十一月二十八日（日）に開催する予定です。太平洋戦争が「終結」して六十五年が経ちましたが、日本軍による性奴隷制度である「慰安婦」問題はいまだ解決されてはいません。被害者たちの高齢化は進んでいます。名誉回復がなされないままこの世を去るといふ知らせが続くたびに、一刻も早い戦後補償の必要性を痛感します。今わたしたちに何ができるのか、また何をなすべきなのか、再度、原点に立ち戻って考えたいと思っています。

また、教団性差別問題特別委員会が廃止されて以降、有志団体として「性差別問題連絡会」が全国のネットワークづくりを継続してきました。今年度は京都で「第七回性差別問題全国会議」が開催されます（二〇一一年一月二十三～二十四日）。当委員会のほか、同性愛者差別問題小委員会、セクシユアル・ハラスメント問題小委員会にご協力いただき、実行委員会を結成します。

これらの集会については、詳細が決まり次第ご案内しますので、是非ともご参加下さい。



「教会と社会」特設委員会からの報告

委員長 竹内宙

政治・経済・外交・社会、すべての領域が「病んでいる現実」を示しています。韓国軍の艦船「天安（チヨナン）号」沈没は「北朝鮮の潜水艦による魚雷攻撃によるもの」と米・韓国政府は発表しました。韓国統一地方選を前にして韓国政府与党は、「緊張激化」策で選挙での勝利を目指しましたが、大敗しました。韓国国民は、その手に乗りませんでした。同じ天安（チヨナン）号事件で、普天間基地の県外移設を模索していた鳩山政権は、「抑止力（在沖米軍）の重要性を改めて認識した」と県内移設を断念し、鳩山辞任となりました。アメリカの緊張激化策の前に屈したのです。同じ事件を巡って、韓・日の反応が対照的だったことは一考に値します。そういう情勢下で、七月九日、「合同」問題特設委員会と共催で、沖繩集会「チビチリガマから日本国を問う」という映画上映会を行いました。

今年、「韓国併合」から一〇〇年目の年、滋賀地区の「八・一五を覚え平和を求めめる集会」に協賛しました。韓国基督教長老會大田老會の崔亨默（チュ・ヒョンムク）牧師を招いての「日韓併合／韓日強制合邦は何だったのか？ 対話集会」という近現代史を改めて問う内容でした。

社会セミナーの内容が大体固まったので、

左記のとおり案内します。ご参加ください。

社会セミナー① 「在日外国人の人権と教育

について考える」(在日・日韓小委員会)

日時 九月十二日(日) 午後四〜六時

会場 洛南教会

講演 「在日を生きる」

講師 鄭 想根(チョン・サングン)さん

(滋賀朝鮮初級学校教師)

社会セミナー② 大人と子どもが一緒に考える環境問題集会―水環境科

学館見学と航空写真家・中島省三さんの映画上映およびお話し会―(滋賀地区社会

委員会と共催/反原発・環境問題小委員会)

日時 十月十一日(月・休) 午後一時半〜四時

会場 滋賀県草津市の矢橋帰帆島公園内

参加費 滋賀県立水環境科学館 大人三〇〇円、子ども一〇〇円

(研修費・保険料を含む。九月二十七日までに要申込。)

社会セミナー③ 基本的人権について深める

内容とする(詳細は準備中。憲法問題小委員会)

日時 十月十七日(日) 午後三時半〜

会場 平安教会

講師 横田耕一さん(九州大学名誉教授)

社会セミナー④ 「象徴天皇制に未来はあるか? Part2」―象徴

天皇制の制度悪―(靖国・天皇制問題小委員会)

日時 十一月十四日(日) 午後三時半〜

会場 洛陽教会 地階ホール

講師 菅 孝行さん

社会セミナー⑤ 昼まわり(夜回り)小委員会

日時 一月三十日(日) 午後一時に京都教会集合

第七十四回(合同後第七十四回)総会期

第二回京都教区常置委員会(七月六日に開催)において、改定宗教学問題特設委員

会の設置が承認されました。これは、本年五月の教区総会の付託事項にもとづいて、宣教

部からの提案を常置委員会で協議し、承認したものです(教区規則第三十六条第一項をご

参照ください)。当委員会の委員、任期、予算は、左記のとおりです。

委員 菅 恒敏(長)、府上征三、入 治彦、川上 信、竹ヶ原政輝、千葉宣義、塚本誠一、谷村徳幸、山田真理

任期 二〇一〇年度の一年間(次期教区定期総会まで)

予算 十五万円

改定宗教学問題特設委員会の設置常置委員会の

設置常置委員会の

両丹地区・滋賀地区の

教会を訪問して

教区書記 韓 守信

さきの八月五日(月)と六日(金)の両日、井上勇一副議長とともに、両丹地区・滋賀地区の教会を訪問しました。望月修治議長は、緊急の用事のため不在でした。初日は、福知山教会、夜久野教会、丹後宮津教会、東舞鶴教会、二日目は、今津教会、朝日教会、長浜教会、彦根教会、水口教会を訪ねました。教区総会などの公的な場では知ることのできな

い各教会の様子を感じることができました。そして、たがいに支えあつていくことが、教区

の繋がりを深めていくうえで、何よりも大切であることを再確認いたしました。神さま

の御心と御計画が実現することを願いながら、神さまの器として、これからも、誠実な歩み

をなしていきたいと思えました。

★★★★★★★★

【教会・伝道所からの声】(5)

看板はいりませんか?

近江平安教会 西浦陽子

一九九二年六月、うちの教会に念願の「京都教区部落解放センター」がやってきました。「日本基督教団近江平安教会」の看板の横に

少し小ぶりのセンターの看板が並びました。類がニマツと緩むほど嬉しかったです。

しかし、この日が来るまでには何年もかかりました。私自身が部落差別をしていることに気づいたのは二十歳の時でした。父と母は熱心なクリスチャンで教会の役員やCSの先生などもして若い教会員たちからも慕われていましたが、結婚の話になったとき母が「部落の人とだけはやめときな」と言いいました。「なんで？」と問うと「血族結婚が多いから、奇形児が生まれやすいから」と答えました。私は母が助産婦をしており医療従事者からの言葉だからと鵜呑みにしてそのことが必ずしも事実でないことを疑いもしなかったのです。きちんと自分で調べたり考えたりしないまま私は、ある日、教会の友人に「部落の人は…」と話しました。友人は被差別部落の出身でした。自分の一言がどれだけその人を傷つけたかということ、後に部落差別について学習を進める中で気づかされ、声を上げて泣きました。胸を叩き割りたいほどに悔やみました。

教会では、部落差別を始めあらゆる差別を許さないクリスト者の会「いばらの会」が結成され、学習と行動を重ねることによって、差別と闘う仲間と共に歩む教会に変わって行つたのです。部落差別は権力によって作られ長い間民衆によって温存されてきました。自分から積極的に知ろうとしなければクリスト者だから差別しないということはありません。

私たちは一人一人神様からの使命を帯びてこの世に生まれてきた大切な存在です。その一人一人が「本当に生まれて来て良かった。生きていて良かった」と思える社会になるために、私たちの頭上に高く人間解放の看板を挙げましょう。二十年前くらい前に岐阜の教会で「部落差別問題研修会」をするために入り口に案内板を立てようとしたとき、教会員から立てないでくれと反対されたとき聞いたことがあります。あなたの教会はどうですか？ 私たち近江平安教会では「部落解放を目指すクリスト者はあらゆる差別を許さない」を合い言葉に今日も大きく教会の扉と心の扉を開けて訪れる方たちを歓迎しています。看板はいりませんか？ 人間の自由と尊厳を認め合う看板はいりませんか？

各教区に「部落解放センター」の看板が高々と挙がることを心から願ってやみません。

教区って、何だろう

八日市教会 谷 文子

あなたが考えている教区についての文章と言われ、改めて考える時を持たせていただいたことに感謝です。

このことについて京都教区規則に目を通しました。京都教区は、滋賀県及び京都府とあり、滋賀地区・両丹地区・京都南部地区の三地区に分かれて宣教活動がなされています。

組織には大・小の教会が関わり、互いに協力し合いながら活動しなければならぬと考えますが、現実、活動に関わっておられる方は何分の一ではないでしょうか。わたし自身も、教区と言えば定期総会に出席し報告を聞くだけであって、何も活動に協力していません。何が分かりました。教職・信徒の主立った方々によって働きがなされていることを、各教会の信徒も、もっと知る必要があると感じました。

教会の働きに大・小をつけるのは心許ないのですが、信徒の人数によってやはり大・小をつけざるを得ないのではないかとも思います。たとえ人数の少ない教会であっても、そこに主が共に働いて下さることによってなくてはならない働きがなされていることを信じ、各教会での働きを信徒一人一人が与えられた賜物を用いて宣教に努めることが大切だと思います。しかし、各教会・信徒の足らざる部分を多くの教職・信徒の支えをもって補うのも教区ではないかと思えます。幹に連なる枝として働く者でありたいです。課題を与えられ、教区について考えることを与えられ、感謝します。

京都教区への期待

近江野田教会 廣野 尊士

去る六月二十日、近江野田教会は宣教一〇

○周年記念礼拝をささやかながらも無事終えることが出来ました。主なる神に、主イエス様に、そして、教区、地区、伝道圏の牧師、教会員、会友のお支えによるものと、深く感謝するものです。滋賀地区にあって、今も続く近江野田教会宣教支援委員会の七年余に及ぶご援助に対し、改めてお礼申し上げます。

奇しくも本年二〇一〇年は、エキュメニカル運動が始められて一〇〇年目の節目に当たります。この一世紀に及ぶエキュメニカル運動の歴史と現状をみると、一歩前進、一歩後退といった決して実りの大きくない印象を受けますが、それでもなお運動自体が消滅すること無く継続されていることに希望を持つものです。

かつての滋賀地区や湖東伝道圏は、教会の垣根を越え、正に大家族のような良き時代だったと過去形で振り返る高齢者の域になりました。現代の希薄な人間関係は日本社会の現実を教会もまた、その内にあると受け止めねばならないのかも知れません。しかし、教会は、社会のコピーである必要はないとも思います。某牧師は、同人誌『時の徴』の「K・バルトの教会論から今日の教団を顧みて」の著述の中で、教会の分裂ほどこの世に対して躓きとなるスキヤングラスなことはないと述べています。「地上を旅する神の民」として、互いに信頼と忍耐とをもって、共に「世の教会」としての使命と責任を果たしていきたいと思っています。「待ちつつ、急ぎつつ」と記されて

います。私もまた同様な想いです。かつて私自身、大変な苦い体験を経たものとして、他の人には味わって欲しくはないと、強く願うものです。

平信徒として、教区に属される牧会者の方々、が知恵を集め、教団、教区、地区、伝道圏の各教会間が親しい関係で歩めるよう、その働きを期待いたします。

現代日本には多くの外国籍の方々が働き、また、居住されています。今後が増えることはあっても減少することはないと考えるとき、教派間の連帯だけでなく、他国の、他宗教の信者の方々とも抗争でなく、共生の道を選択することが、聖書に、主イエスの言葉に倣う歩みと思うからです。

神様は、あなたを 愛していらっしやいますよ

安土教会 伊澤 威

一九五二年夏、病を得て一年間の休学を余儀なくしておりました私は、特に何をすることもなく、その日その日を小説、哲学書、詩集などを読み散らかすなどして無聊を託っておりました。その頃、私とは別の高校に通っていた友人がよく見舞ってくれまして、手持ち無沙汰な私と議論し、「人生論」などを戦わせて、私の暇つぶしの相手をしてくれました。ある時、キリスト教のことに話が及んだ時

(彼の弟がキリスト教系の保育園児であったため、彼は、弟を夕方には迎えに行かなければならなかった)、ポケットから小さな聖書を取り出し、どこでも良いからこれを読んでみると手渡して、その夜は、弟を迎えに行き、帰って行きました。私は、それを手にとつて何となくページをめくって見ましたが、面倒くさくなって、他の書物の上においてそのままにしてみました。

そうこうしている内に、「金閣寺の方の民家でアメリカからやって来た宣教師がキリスト教の話をしているから、一度、聴きに行かないか」と誘われました。誘われるままに、その家を訪ねました。真夏の午後のこととて、汗を拭き拭き案内を乞うと、中から中年の女性が出てこれられ、その女性の案内で奥の和室に通されました。

部屋には、眼鏡をかけた小柄な日本の女性が、ちよこんと座っていました。この人が実は、宣教師だったのです。彼女は、日系アメリカ人の二世でした。「ようこそいらっしやいました。どうぞこちらへ」という流暢な日本語で招き入れられました。私は、言われるままに彼女の傍に座りました。丁度、聖書の勉強会がすんで、お茶の時間が始まったところの様でありました。開け放たれた広い和室が妙に涼やかで、初めてにもかかわらず、気楽に話の輪に入り込んでいたのを憶えています。それから何度かその自宅へ通いましたが、彼女はただ、眼鏡越しに笑みを浮かべている

だけでした。

翌年の春、病状もかなり良くなってきたので復学し、家庭集会にも顔を出すようになりました。当時、この教派は京都には教会を持っておらず、教箇所で信者の家庭を借りて集会を持っていたので、私もそれらの集会に出席していました。その年の夏、宣教師が私の手をとって、「神様は、あなたを愛していらっしやいますよ」と話しかけられました。まさにその瞬間、御霊の働き、御子イエス様の執り成し、神様のお許しを感じ、「信じます」と応えました。爾来、今日に至るまで、つまずき、よろけ、ふらふらしながらも、恵まれた日々を送らせて頂いております。

一人一人をマモツテください

能登川教会 松井泰子

私たちの教会である能登川教会は、古い木造の教会ですが、三年前、雨漏りのために屋根を張り替え、壁もペンキを塗ったので、赤い屋根と緑の壁が際立った色彩となり、カラフルな建物が近所の話題ともなりました。しかし、内部は建てられた七十年前と変わりなく、厳しい時代を生き抜いて黒光りする手すりや歴史を物語ってくれます。

礼拝堂には正面に十字架があり、それに導かれるようにして、皆集います。障がいをもつ人も多い私たちの教会は、必ず誰かが支

えたり、抱えたりして手をとり合うのがいつもの風景です。そして、出席者に合わせて並べる席は、時には混み合う中で体を寄せ、肩をぶつける状態にもなります。そんな中でも礼拝の前には、牧師先生は、全員と言葉だけでなく、握手でぬくもりのあるあいさつをしてくださいます。その時、どこからともなく「よく来たね」、「待ってたよ」というイエス様の御声が聞こえてきます。それはどんな時にも優しく響き、この教会を喜びと笑顔で包んで下さいます。

代務者をして下さっている吉住英和牧師は、障がいをもつ教会員の多い能登川教会の歩みを共にして下さり、心の言葉に耳を傾けつつ、ぬくもりや感性を大切に伝道して下さいます。

私たちの教会には、多くの言葉で思いを伝えるのが難しい障がいをもった人もいます。先日、一人の男の人が一生懸命に祈って下さいました。「病氣の人、マモツテください。しんどい人、マモツテください。ここにいない人、マモツテください。神様、神様、どうぞマモツテください。アリガトウゴザイマス。」一緒に祈りながら、いつも自分の側から「マモツテください」としか祈っていないわたしと違い、この素直であたたかな祈りからは、他者への優しさや神様への信頼、そして、全てを神様に委ねている信仰が伝わってきました。その祈りはすでにイエス様に届き、叶えていただいているからこそ、「共に歩んでく

ださり、アリガトウゴザイマス」という心からの感謝の言葉で結ばれているのだと心を打たれました。

「わたしは知者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしものにする」(一コリ一・一九)。他者のことを一途に祈る仲間たちは、賢いことを誇る今の社会では、なかなか受け入れられません。しかし、イエス様はいつも共にいて、一人一人の尊い生命、笑顔を大切に、あたたかく包んで下さいます。これからも、神様に皆の祈りを合わせ、能登川教会の一步を積み重ねて参ります。

編集後記

京都教区の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。いつも教区の働きをお支えくださり、心より感謝を申し上げます。とくに、お忙しいなかご寄稿いただきました皆さまに、深く御礼申し上げます。これからも、皆さまのご理解とご協力、何よりもお祈りをよろしくお願い申し上げます。

主イエスのひとつの体として、これからも励ましあっていきましょう。実り豊かな秋をお迎えください。体調をお崩しになりませんように。イエスは主なり&シャローム!

(H)